

令和四年度岡山大学学位記等授与式 式辞

本日ここに、卒業生、修了生の皆さんをお迎えして、令和四年度学位記等授与式を執り行うことができますことは、皆さんだけでなく、ご家族や保護者の方々、そして私たち教職員にとっても、誠に嬉しく喜ばしいかぎりです。

皆さんは、本学に入学してからのほとんどの時間を、ウィズ・コロナのもとで過ごしてこられました。日々の生活に加え、授業、部活動、アルバイト、研究や就職活動などにおいて、様々な制限を受け続けて来られたことと思います。皆さんは本当によく耐えて、困難を乗り越えられ、無事に今日のこの日を迎えられました。皆さんのこれまでのご苦勞に敬意を表するとともに、皆さんのご家族とともに、今年の学位記等授与式を挙行できることを大変嬉しく思います。

卒業生、修了生の皆さん、ご家族や保護者の皆さんに、岡山大学を代表し、万感の思いを込めて、ご卒業ご修了のお祝いを申し上げたいと思います。本日は、誠にありがとうございます。

現在コロナパンデミックは終息に向かいつつありますが、地球温暖化に伴う気候変動は続き、国際紛争やエネルギー問題や経済格差、そして人工知能などの進化するテクノロジーなど、私たちは、社会の全ての分野において、未来の予測が極めて困難な時代に生きています。このような激動の現代は、「VUCAの時代」と呼ばれています。皆さんは、これからの人生を「VUCAの時代」と共に生きていくことになることと思いますが、その道を切り拓いてくださるのは、次世代を担う皆さんだと期待しています。

本日は、卒業生・修了生の皆さんへのエールとして、これまでの本学のSDGs活動を通じて私が学んだこと、そしてこれからの社会が皆さんに期待していることについてお伝えしたいと思います。

SDGs(Sustainable Development Goals)は、国連が提唱した、世界共通の社会課題を解決するための17の達成目標を示したものです。私は学長就任直後の平成29年度から、本学におけるSDGsに関する行動指針を定めて、SDGsの達成に貢献する活動を大学全体で取り組んでまいりました。令和元年度には、学生の皆さんが自由な発想でSDGs活動に取り組む場としてのSDGsアンバサダー制度を新設しました。SDGsアンバサダーには、高校生も参加をしてくれて、デジタルネイティブのZ世代の若者たちの方がむしろSDGsへの関心が高いことに気が付きました。

その後、SDGsアンバサダーの皆さんによる様々な自分事SDGs活動、ヤングダボス会議とも呼ばれる世界190ヵ国以上から若者代表を一堂に集めてSDGsの次世代リー

ダーを育成する One Young World サミットへの参加、データサイエンス部や学生発ベンチャー企業の活躍など、学生の皆さんの様々な主体的な活動が広がってきました。令和2年度からスタートした岡山大学 SDGs 推進表彰 (President Award) の学生部門には、毎年度多くの応募があり、斬新なアイデアと、地域や企業の様々な方々と連携した多様な取り組みを表彰することができました。アンバサダーの皆さんは、これまでの流れや考え方にとらわれず、ありがたい未来の姿を共有しながら、様々な背景を越えたパートナーシップを構築して、社会課題の解決に向けた活動を展開してくれています。

私は、コロナ禍を耐えて頑張ってきた次世代の皆さん、ここにいらっしやる卒業生・修了生の皆さんも含めて、VUCA の時代を切り拓く、「ありがたい未来」に社会を変容させる力、「トランスフォームする力」を、伸ばしつつあると実感しています。そして、我々教職員の果たすべき役割は、皆さんの主体的な活動を支援することにあるということを、改めて学ぶことができました。

その上で、皆さんには、一つしかない地球と生態系の健康、「プラネタリーヘルス」を実現する「地球人」として生きていただきたいと期待しています。

私は昨年、コスタリカのサンホセで開催された国連平和大学の地球憲章国際会議に招待され、出席してまいりました。私は、本学が「プラネタリーヘルス」のコンセプトに基づき推進している SDGs 諸活動について紹介しましたが、そこでの大きな話題の一つは、昨年9月の国連総会において、国連事務局に若者を中心とする「国連ユースオフィス」が設置されたということでした。今後、地球規模の課題に対するあらゆる政策決定プロセスに、国や地域という枠組みを超えて「次世代」すなわち、「Z 世代」の皆さんが主体的に参画できるシステムが誕生したことです。これは、国連も皆さんに期待をしているということに他なりません。

岡山大学の卒業生・修了生である皆さんには、本学の目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に基づく様々な学修活動を通して、「課題解決のための遺伝子」がしっかりと受け継がれていると思います。これからの進学先・就職先でも「トランスフォーム」の担い手である地球人として活躍されることを願っております。これは、本学が教育で目指すべき人材像「主体的に変容し続ける先駆者」そのものでもあります。

人生100年時代のいま、皆さんが本日迎えられた卒業・修了は、文字通りの“終わり”を示しているのではなく、皆さんにとってここから本当の「学び」が“始まる”ことを意味しています。ぜひ、皆さんも4月からの活動拠点を「新たな成長の場」としてしっかり認識していただき、生涯にわたり学び続けていただければと思います。もちろん私たちも、本学の同窓生となった皆さんの更なる「学び」を引き続き支援してまいります。

今年 1 月、多くの皆様方のお力添えにより隈研吾氏監修による CLT を活用した木造建築である「岡山大学共育共創コモンズ(愛称: OUX(オークス))」が津島キャンパス内に完成しました。この建物は、「プラネタリーヘルス」を探求して、脱炭素社会を目指す本学と岡山地域が取り組むローカル SDGs の象徴と言えらるとともに、皆さんと岡山大学が将来再び繋がるための大切な空間でもあります。本日お越しのご家族や保護者の皆様にも、ぜひこの機会にご覧いただければと思います。

卒業生・修了生の皆さん、これから社会人あるいは大学院生としての新たな生活が始まります。私たち全教職員は、皆さんが、母校岡山大学で学んだ伝統と精神を胸に、それぞれの新しい職場などで、自信を持ってのびのびと活躍してくださることを心から祈っています。そして、またいつかこの岡山大学のキャンパスに、成長した皆さんをお迎えするときを楽しみに、私からの餞(はなむけ)の言葉とさせていただきます。このたびは誠におめでとうございます。

令和 5 年 3 月 24 日

国立大学法人 岡山大学長 槇野 博史